

①地方発イノベーション創出環境の構築事業

			福岡市交付対象事業経費			
目的	理化学研究所や九州大学などの知的資源，技術シーズを活用し，産業界やスタートアップを巻き込んだ地域のオープンイノベーションを推進する。		29年度	23,437 千円		
			30年度	20,948 千円		
実施主体	福岡市	担当	経済観光文化局創業・立地推進部 新産業振興課		事業期間	H29n-H31n
実施内容	【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】					
	<p>1 ネットワーク形成に向けた活動 企業の技術的課題の解決や大学等の研究成果の産業界への橋渡しを目的とした、「ふくおか産学共創コンソーシアム」を設立。内閣府，福岡市・九州先端科学技術研究所，理化学研究所，九州大学の共催による「サイエンス&イノベーションフォーラム in Fukuoka」において同コンソーシアムの設立を発表。 組織や業種の垣根を越えて交流・連携できる環境をつくるため，県内，九州・山口地域の高度な分析・技術を有する機関との連携や，展示会等への出展，福岡経済同友会や福岡商工会議所・工業部会大会における取組み紹介等を実施。 また，研究開発の連携やイノベーション創出を支援するため，企業と研究機関等を結びつけるマッチングの支援活動やセミナー等を開催。</p> <p>2 企業ニーズの収集や大学等シーズの発信活動 企業の技術的な課題について，専門的知識を有するコンサルタントがその解決を支援するよう相談対応を行うことにより，企業の潜在的課題や分析ニーズ等を収集。 理化学研究所や九州大学などの知的資源，技術シーズを広く発信するため，大学等研究機関主催のワークショップ等を開催。</p>					
		指標内容	H29目標	H29実績	達成率	
KPI		技術・製品の改良中・実用化件数（件）	13	18	138.5%	
KPI		よろず相談対応件数（件）	130	179	137.7%	
KPI		産学共同研究開発に資する開発資金等獲得のための提案件数（件）	3	4	133.3%	
補足						

②福岡市・九州離島広域連携事業

			福岡市交付対象事業経費			
目的	福岡市と直行便を持つ九州の離島（対馬市，壱岐市，五島市，新上五島町，屋久島町）と連携して，観光資源のブラッシュアップ，国内外に向けた情報発信等を行い，インバウンド及び国内旅行者の流入による交流人口の拡大，地域創生の人材育成やまちづくりに繋げる。		29年度	11,929 千円		
			30年度	11,000 千円		
実施主体	壱岐市（代表），福岡市，対馬市，五島市，新上五島町，屋久島町	担当	経済観光文化局観光コンベンション部観光ブランド推進課		事業期間	H29n-H31n
実施内容	【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】					
	1 広域観光戦略策定等業務					
	(1) 戦略策定組織の設定，運営 観光分野等における専門家，交通事業者，各市町で構成される戦略策定組織を設立し，H28n事業及び各自治体の現状と課題を踏まえ，H29nからH31nの広域観光戦略を策定。					
	(2) 人材育成，受入環境整備等 観光分野の人材育成，国内外観光客の受入環境整備及び受入環境強化を目的として，各島の宿泊事業者や観光関係団体等を対象に，宿泊予約サイトへの登録促進，着地型観光の取り組み推進等をテーマにしたセミナーを合計4回実施。					
	2 国内旅行商品造成等業務 宿泊施設の国内予約サイトへの登録を支援し，Re島プロジェクト専用プランとして販売を開始。特設ページの作成，WEB広告配信等によって，利用者増を図った。 また，閑散期に各島を訪問する旅行商品を造成。チラシやパンフレットの配付，新聞広告等のメディアを活用したPRによって，商品の販売を促進した。					
3 海外プロモーション推進等業務 海外における各島の認知度向上のため，現地WEBメディアを通じた情報発信，海外宿泊予約サイト内での特集記事の掲載，現地インフルエンサー招請による体験記事の発信等を実施。 また，外国人観光客への対応力強化のため，現地消費者のモニターツアーによる各島の魅力や課題発掘，外国人向け予約サイトの登録啓発を実施。						
4 公式ホームページ運営等業務 H28年度に制作したホームページについて，多言語への対応（英語，韓国語，簡体字，繁体字），閲覧者視点に立った改善等のリニューアルを実施。						
指標内容			H29目標	H29実績	達成率	
KPI	離島航空路・航路利用者数（福岡からの直行便のみの降客数，1月～12月）（人）		562,600	561,586	99.8%	
KPI	外国人延宿泊者数（福岡市を除く，1月～12月）（人）		150,300	178,489	118.8%	
KPI	本事業で造成する旅行商品（福岡経由または福岡発離島行き）の利用者数（人）		400	470	117.5%	
補足	外国人延宿泊者数については，屋久島町の実績値が10月確定のため，見込値を掲載するもの。					

③大規模スポーツ大会を契機としたスポーツの振興及び地域の活性化

			福岡市交付対象事業経費		
目的	世界規模のスポーツ大会を開催することにより、イベント開催ノウハウおよび来訪者の消費喚起ノウハウを習得して、新たな大会の招致と経済波及効果の最大化に繋げるとともに、大規模国際スポーツ大会を契機としたスポーツの振興と地域の活性化を県内全域に波及させる。		29年度	19,343 千円	
			30年度	54,853 千円	
実施主体	福岡県（代表）、福岡市	担当	市民局スポーツ推進部課長（ラグビーワールドカップ2019担当）	事業期間	H28n-H30n
実施内容	【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】				
	<p>1 大会開催準備事業</p> <p>(1) 各種計画の策定 交通輸送、警備、ファンゾーン、シティドレッシング等に関する調査及び計画策定を実施。</p> <p>(2) 集客力のある試合でのリハーサル 福岡市・ニュージーランドオークランド市姉妹都市締結30周年記念ラグビー親善試合およびジャパンラグビーチャレンジマッチ2017にて交通輸送、警備、シティドレッシングのリハーサルを実施。</p> <p>2 気運醸成事業</p> <p>(1) ラグビー日本代表戦の開催に合わせた気運醸成イベントの実施 ジャパンラグビーチャレンジマッチ2017の開催に合わせ、福岡市役所西側ふれあい広場においてステージイベントやラグビーワールドカップ優勝トロフィーのお披露目、ラグビー体験ゾーン、日本代表対世界選抜戦のパブリックビューイングを含む「ラグビーFukuokaファンゾーン」を開催。</p> <p>(2) パブリックビューイングの開催 ラグビーワールドカップ2019のプール組分け抽選会と試合日程発表会およびラグビー日本代表戦3試合のパブリックビューイングを開催。</p> <p>(3) Fukuoka Future Session 本大会を一緒に盛り上げてくれるメンバーを広く県民から募り、それぞれの視点から大会の成功に向けたアイデアを出し合うセッションを実施。</p> <p>(4) 九州3都市合同でのPR活動 ラグビーワールドカップ開催都市である熊本、大分と連携し、九州（宮崎、沖縄を除く）、山口、広島の8県で開催されたトップリーグ等において、PRブースを設置し大会PRを実施。</p> <p>(5) イベント併催ラグビー広報事業 福岡県内で開催された各種イベントにて、ラグビーワールドカップ2019のPRを実施。</p> <p>(6) その他気運醸成イベントの開催 ①ラグビーワールドカップ2019 PRイベントin福岡、②ラグビーワールドカップ2019 PRイベントin北九州、③開催都市住民向け先行抽選販売キャンペーン</p> <p>3 広報事業</p> <p>(1) 広報ツールの制作 大会の県民・市民の認知度向上のため、プロモーションビデオやノベルティ等の広報ツールを制作。</p> <p>(2) パネル展の実施 福岡県庁1階ロビー及び福岡市役所1階ロビーにおいて大会PRのためのパネル展を実施。</p> <p>4 ラグビー普及事業</p> <p>(1) スクラム先生プロジェクト (公財)日本ラグビーフットボール協会や福岡県ラグビーフットボール協会と連携し、大野城市立御笠の森小学校および福岡市立筑紫丘小学校でラグビー特別体験事業を実施。</p> <p>(2) アジア太平洋子ども会議イン福岡におけるタグラグビー交流事業 「アジア太平洋子ども会議・イン福岡」事業と連携し、会議に参加した各国子ども大使を対象にタグラグビー交流事業を実施。</p>				
	指標内容	H29目標	H29実績	達成率	
KPI	キャンプの受入やホストシティ・タウンの取組みを行う市町村数（件）	13	集計中	—	
KPI	福岡県身体障がい者体育大会の登録者数（人）	831	集計中	—	
KPI	NP0・ボランティアと県との協働事業数（事業）	186	集計中	—	
補足	H29実績については、H30年9月(予定)の福岡県総合計画審議会にて報告するもの。				

④博多エリア・インバウンド回遊拠点整備事業(福岡アジア美術館)

			福岡市交付対象事業経費			
目的	来館者の憩いや読書の場としての機能を強化するとともに、博多旧市街における回遊性やその消費活動の促進のため、ユニークベニューとしての活用ができる観光拠点として、リニューアルを行った。			29年度	34,921 千円	
				30年度	千円	
実施主体	福岡市	担当	福岡アジア美術館運営部 運営課, 学芸課	事業期間	H28n-H29n	
実施内容	【地方創生拠点整備交付金事業】					
	<p>1 7階ラウンジ改修 カフェを含む7階ラウンジを、アートと本のある空間へリニューアル。 「アート・ブック・カフェ」のある美術館としては国内でも例がない。当館の閉架書庫で保管してきたアジアの美術・文化・歴史・サブカルチャー関係の蔵書約6万冊の中から約1万冊を選定し、配架。来館者は、自由に閲覧できる。 同時に、インバウンド観光客や市民を対象としたイベント等ができるスペースを整備。カフェとイベントスペースを「アートカフェ」と名称変更し、一体的に利用することで、レセプション等のユニークベニューの場としての機能も向上させた。</p> <p>2 1階エントランス改修 1階のエントランスに、中国人作家ブー・ホァ氏の原画をもとにした壁画を設置。 美術館らしい魅力的な空間にリニューアルすることで、インバウンド観光客の認知度を高め、7階の「アートカフェ」や展示室への誘導を促進している。</p>					
	指標内容			H29目標	H29実績	達成率
KPI	観覧料・使用料等収入(千円)			2,734	3,151	115.3%
KPI	来館者総数(千人)			379	327	86.3%
KPI	外国人来館者(千人)			11	7	63.6%
補足	交付金による整備はH30年3月末に完了し、H30年4月から供用開始している。					

⑤アクティブシニアの生涯現役さきがけ事業

			福岡市交付対象事業経費			
目的	健康寿命の延伸を図るとともに、保健福祉医療分野の新たなサービスを創出する仕組みを構築し、超高齢社会に対応した活力ある都市づくりを進める。			29年度	59,813 千円	
				30年度	110,499 千円	
実施主体	福岡市（代表）、糸島市	担当	保健福祉局高齢社会部 高齢社会政策課	事業期間	H28n-H32n	
実施内容	【地方創生推進交付金事業（先駆タイプ）】					
	1 福岡ヘルスラボ設置 健康づくり・介護予防に関する産学官民による共働・共創の場「福岡ヘルス・ラボ」を構築・運営。					
	2 健康先進都市推進 高齢化が進む大都市のモデル構築を目指し、10年先を見据えた保健医療福祉の新たな構想を策定するとともに、社会的ニーズや効果が高い事業をリーディング事業として実施。					
	3 認知症プログラム 認知症の家族を介護されている方や医療機関・介護施設などを対象としたユマニチュード講座を実施。					
	4 超高齢社会対応検討（アラカンフェスタ） 60歳前後の世代を中心とした、必要な情報や人に出会えるイベント「アラカンフェスタ」の開催などにより、アクティブエイジングを推進。					
	5 地域との協働による移動支援モデル事業 高齢者の買い物や通院などの支援に取り組む地域団体等に、車両を貸し出すモデル事業を実施。					
	6 買い物等支援マップ作成 福岡市の高齢人口や商業施設などの社会資源の分布状況を示す買い物等支援マップを作成。					
	7 健康・社会参加インセンティブ制度検討 健康づくりや社会参加活動に取り組む高齢者を応援するためのインセンティブ制度の導入について検討。					
	指標内容			H29目標	H29実績	達成率
KPI	活躍シニア数（人）			130	155	119.2%
KPI	行動変容した市民数（人）			9,000	13,399	148.9%
KPI	新たな事業創出数（事業）			3	6	200.0%
補足						